

まなびや訪問

金融教育研究校・
金銭教育研究校
の紹介



JR秋田駅での八峰町の特産品販売



2年生の授業



八峰中学校の校舎



3年生の授業



秋田県八峰町立八峰中学校

八峰町立八峰中学校は、世界遺産「白神山地」の西側、青森県との県境に位置し、2016年に峰浜中学校と八峰中学校が統合して開校した、町内唯一の中学校です。

本校は、2017年度、2018年度の2年間、秋田県金融広報委員会から、金融教育研究校の委嘱を受け、(1)望ましい勤労観・職業観を社会人から学ぶ、(2)これから自分の生き方にについて考え、(3)学んだことを職業体験活動に生かす、(4)アントレプレナーシップ（起業家精神）について理解を深める、ことをテーマに、地域に根ざしたキャリア教育と金融教育の充実に、学校全体で取り組んでいます。

1年生は地元企業において就労体験をしたり、大人が働く姿を見たり話を聞くことで、仕事内容はもちろんのこと、多様な勤労観・職業観を学ぶことができました。また、より実践的に、2年生はJR秋田駅での八峰町の特産品販売、3年生は模擬会社を作つたうえで、八峰町の「んめもの（美味しいもの）まつり」で商品を販売しました。みんなでアイディアを出し合いながら、例えば、八峰町の特産品である梨を使ったパイや大福を作り販売し、販売値から仕入値などを差し引いた残りを、社会福祉協議会や高齢者施設へ寄付しました。

生徒たちは、これら一連の学習を通して、仕事と社会の関わりを学び地元八峰町への愛や感謝の思いを強くするとともに、将来の自分や職業選択について深く考えるきっかけとなりました。また、仕入れや販売、寄付といったお金のやりとりを通じて、お金の価値や大切さを実感しました。研究校活動は2018年度で終了しますが、2年間で学んだ金融教育の経験を生かし、引き続き、「地域と協働して人材を育成する学校」をめざしていきたいと考えています。